

採卵鶏における平飼い鶏舎での巢外卵対策の1農場例

ESAC(イーザック)
小島 洋美

養鶏場を巡回している中で、必要とされるのは疾病の対応だけではありません。畜産という分野の大部分を占めているのは飼養管理や衛生管理であり、疾病の対応はその一部に該当します。今回は、日々養鶏場でお仕事をさせていただいている中で、平飼い鶏舎での巢外卵対策に立ち会ったことから、その概要を報告したいと思います。

<農場>

平飼いの採卵養鶏場において120日令で大雛導入後、巢外卵が多く発生するということから対策に取り組むことになりました。大雛の導入元はケージ飼育であり、平飼い鶏舎に鶏を導入すると脚力がないことから、はじめの1週間は餌樋が飛び越えられない状態です。また平飼い鶏舎の設備の配置は鶏舎側面から中央のネストに向かって、飲水ピック、餌樋、ネストとなっており(写真1)、鶏の行動パターンである「餌を食べて水を飲んでネストへ向かう」という流れが乱れている状況でした。巢外卵は多くが鶏舎の四隅に集中し、餌樋の下にも見られました。

<対策① 導入日令を早める>

120日令の導入では、卵を産み始めるまでにネストに上がれない鶏が多くいることが危惧されたため、導入日令を110日令に10日間早めました。それによって産卵を開始するころには多くの鶏がネストに上がれるまでの脚力を身に付け、ネストでの産卵が多くなりました。巢外卵率は対策前に比べて約半分に減少しました(図1：次頁参照)。

<対策② 飲水ピックの移動と巢外卵防止柵の設置>

次の導入ロットでは導入日令を110日令にしたほか、更なる巢外卵の減少を目指して、ネストから一番遠かった飲水ピックをすのこの上へ移動させました。大雛導入時は雛がすのこに上がれず飲水できない状態であったことから、飲水ピックの位置はすのこに接触させる形で、床から飲水ができるように低く設置しました。時間が経ってすのこに上がれる鶏の数が増えてくると、

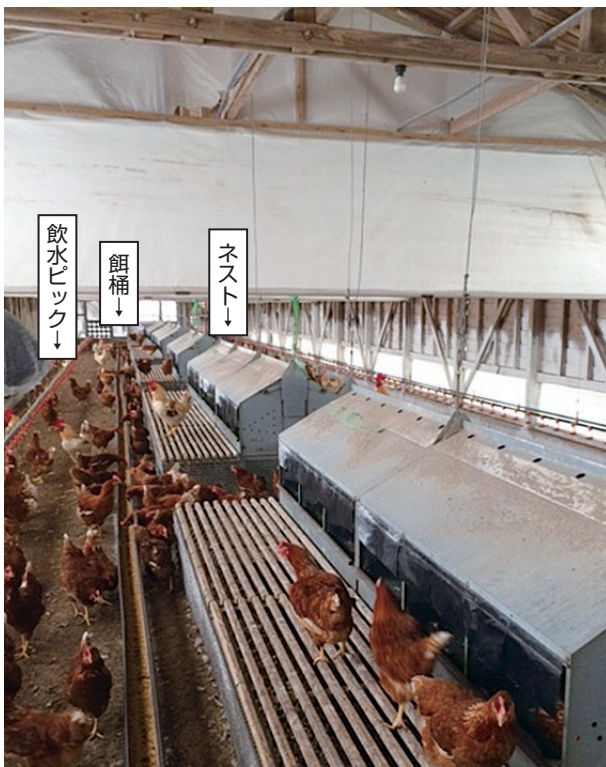


写真1

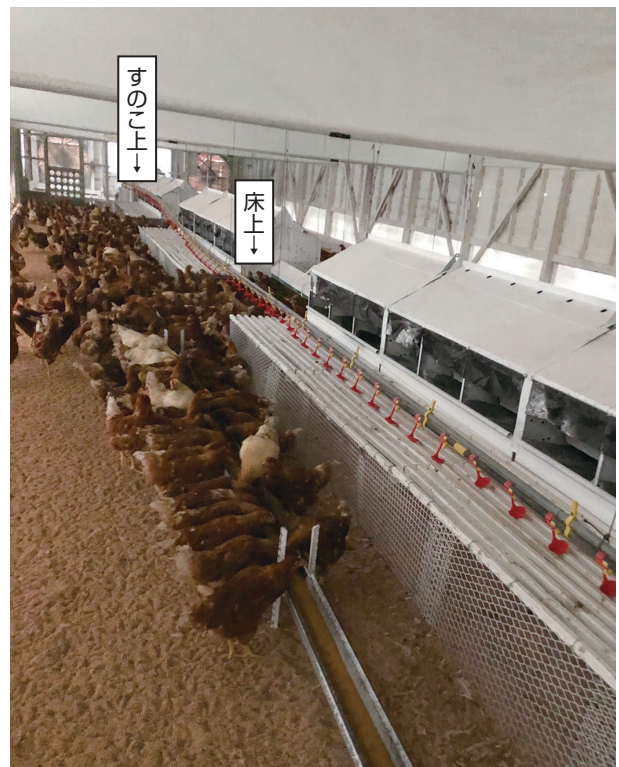


写真2

飲水ピックの片側(奥側)だけをすのこ上の飲水位置に持ち上げました(写真2：前頁参照)。多くの鶏がすのこに上がれるようになった時点で、もう片方(手前側)のピックの高さもすのこ上の飲水位置に上げて、完全にすのこ上へ持ち上げました(写真3)。併せて、鶏舎の四隅に巢外卵が多かったことから、四隅が丸くカーブになるよう金網を設置し、鶏が集まりやすい角を無くしました(写真4)。

この2つの対策により、対策①の時よりも更なる巢外卵の減少が見られました(図1)。

その他の対策事例として、すのこの足場が悪い農場はすのこへのメッシュの設置に取り組まれているところもあります。巢外卵の発生している原因に合わせて様々な対策をとることで、巢外卵の減少につながるものと思われる。



写真3



写真4

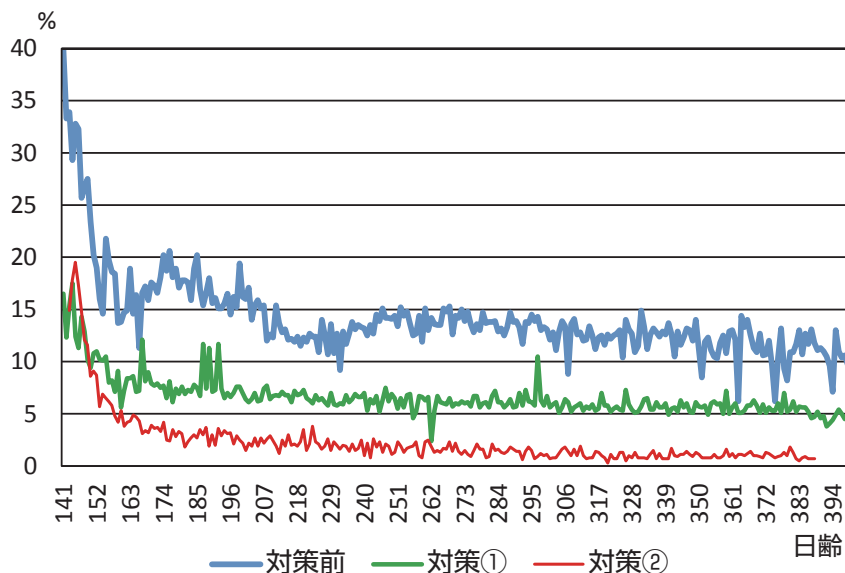


図1 巢外卵率の比較